

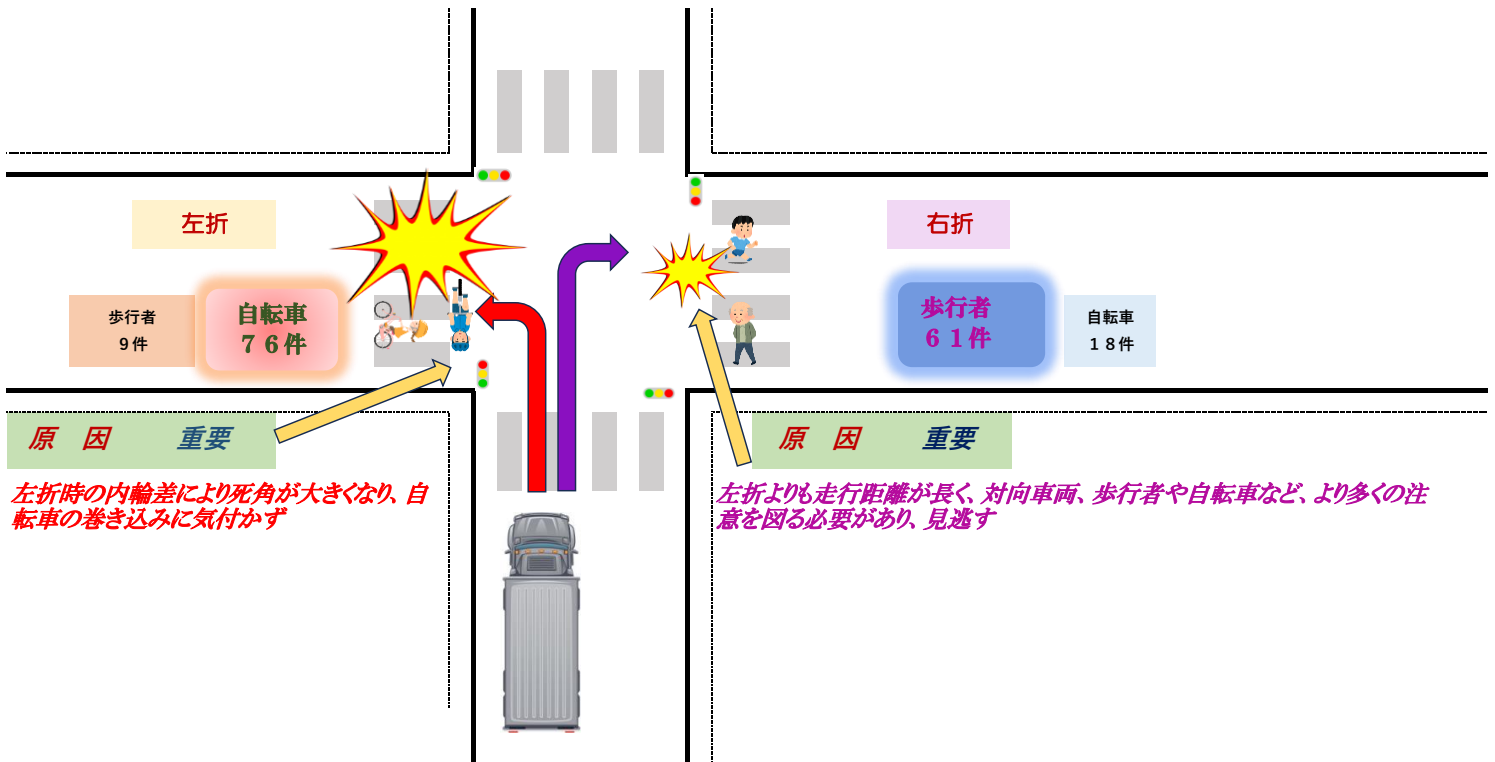
令和5年の全国交通事故統計分析結果

～ 交差点における死亡・重傷事故(対歩行者・対自転車)の発生状況 ～

「左折時」～ 9割近くが対自転車(76件)、対自転車の8割近くが大型車

「右折時」～ 9割近くが対歩行者(61件)、対歩行者の5割以上が大型車

「直進時」～ 6割以上が対自転車(51件)、対自転車の5割近くが大型車



・巻き込み事故を防ぐためのドライバーとしての対策(基本的な運転技術の見直し)

～日々の運転で無意識に行っている動作、判断を再評価し、必要に応じて改善すること～

- ・ミラーの調整
ミラー(サイド・バック)が適切に調整されているか、視界を最大限確保しているか、特にサイドミラーは車両の死角を最小限にする。
- ・交差点での減速
交差点に入る前に必ず減速し周囲を確認、歩行者や自転車が横断歩道に向かっていないか、横断していないか、死角に入る前に目視確認。交差点の右左折時は徐行が義務付けられており、横断歩道は歩行者優先、歩いていれば一時停止が必要。
- ・歩行者等に車両の位置を分かりやすく伝える
後続車両や特に歩行者に自身の車両の動きを明確に伝えるため、ウインカーを早目に点灯し、注意を促すこと。
- ・目視確認の徹底
ミラーだけに頼らず、実際に目で確認することで、より安全な運転が可能。特に右左折時は、早目に周囲の状況を目視で確認する。
- ・内輪差を考慮
巻き込み事故の多くは、内輪差が原因で発生。大型車では特に大きくなるので、これを考慮した運転が必要。
- ・事業者・運行管理者としての対策
- ・交通事故の重大性を認識
ちょっとした不注意から大きな事故は発生。死傷事故→ドライバーに処分、会社経営に大きな影響。刑事、民事、行政処分。被害者だけでなく、被害者の家族、加害者のドライバー、その家族、会社の同僚などみんなを不幸にする。
- ・適切なマネジメント
ドライバーの健康チェック、勤務時間の調整、車両のメンテナンスは重要。
- ・事故リスクの少ないルートを選定
リスクの高い交差点を通過するルートを見直し、安全性を優先したルートを走行させる。
ドライバーから危険箇所に関する意見聴取、ヒヤリマップの作成等、ドライバーにも危機感を持たせる。